

製品名: E2F-2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10253**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	E2F2
別名	E2F2; Transcription factor E2F2; E2F-2
遺伝子 ID	1870.0
SwissProt ID	Q14209
免疫原	抗血清はヒト E2F2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

背景

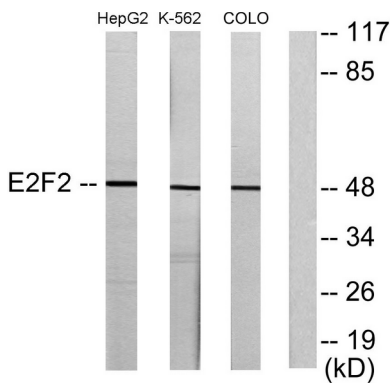
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写因子 E2F ファミリーのメンバーです。E2F ファミリーは、細胞周期の制御と腫瘍抑制タンパク質の作用において重要な役割を果たしており、また、低分子 DNA 腫瘍ウイルスの形質転換タンパク質の標的でもあり

ます。E2F タンパク質は、ファミリーのほとんどのメンバーに見られる進化的に保存された複数のドメインを含んでいます。これらのドメインには、DNA 結合ドメイン、分化制御転写因子タンパク質 (DP) との相互作用を決定する二量体化ドメイン、酸性アミノ酸に富む転写活性化ドメイン、そして転写活性化ドメイン内に埋め込まれた腫瘍抑制タンパク質関連ドメインが含まれます。このタンパク質と他の2つのメンバーである E2F1 および E2F3 は、さらにサイクリン結合ドメインを有しています。このタンパク質は、細胞周期依存的に網膜芽細胞腫タンパク質 pRB に特異的に結合し、機能: 転写活性化因子であり、E2 認識部位 (5'-TTTC[CG]CGC-3') を介して DP タンパク質と協調的に DNA に結合する。この部位は、細胞周期調節や DNA 複製に関与する多くの遺伝子のプロモーター領域に見られる。DRTF1/E2F 複合体は、G1 期から S 期への細胞周期の進行を制御する機能を持つ。E2F-2 は、細胞周期依存的に RB1 タンパク質に特異的に結合します。、PTM: S 期に CDK2 およびサイクリン A-CDK2 によってリン酸化されます。、類似性:E2F/DP ファミリーに属します。、サブユニット: DRTF1/E2F 転写因子複合体の構成要素。DP ファミリーのメンバーとヘテロ二量体を形成します。細胞周期中、RB1 は G1 期中期から後期にかけてリン酸化され、DRTF1/E2F 複合体から分離し、E2F の転写を活性化します。ウイルス性腫瘍タンパク質、特に E1A、T 抗原、HPV E7 は RB タンパク質を隔離し、活性複合体を放出します。EAPP に結合します。、組織特異性: 胎盤で最も高い発現レベルが認められ、肺では低い発現レベルが認められます。腫瘍サンプル由来の多くの不死化細胞株にも認められます。、

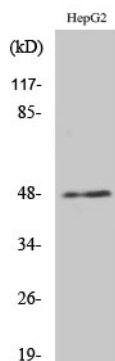
研究分野

幹細胞経路; 細胞周期 G1S; 細胞周期 G2M_DNA; タンパク質アセチル化

画像データ



E2F2 抗体を用いた HepG2、K562、および COLO205 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



E2F-2 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタン ブロット分析。